

平成24年度恵那農林事務所農業普及課及び中山間農業研究所中津川支所  
合同成果発表会実施要領

1 目的

恵那農林事務所農業普及課は、「恵那地域ならではの特長を活かした農産物生産と地産地商による中山間地域農業の活性化」をテーマに、農家及び関係機関との協働・連携により「人づくり・物づくり・地域づくり」を進めている。

また、中山間農業研究所は、本所（飛騨市）と中津川支所が一体となり、中山間地農業が県民の生命と健康を守り、環境保全に貢献する魅力ある産業として発展することを目標に、現場と一体となった試験研究と技術支援を実施している。

本年度は、昨年度に引き続き両機関が合同で成果を発表し、関係者等と意見交換を行うとともに、現場で解決を求められている課題は何か、試験研究成果をいかにして現場へ普及するかといった問題についても併せて検討を行う。

2 日時 平成25年2月19日（火） 13：30～16：05

3 場所 恵那総合庁舎大会議室  
（恵那市長島町正家後田1067-71 電話番号：0573-26-1111

4 日程 13：00～13：30 受付  
13：30～13：40 挨拶  
13：45～14：45 普及活動事例発表  
15：00～16：05 試験研究成果発表

5 発表課題及び内容 別紙1

6 参集者 生産者、JA、県関係機関、市町村等

7 出席申し込み 別紙2による  
締め切り 平成25年2月8日（金）  
申し込み先 恵那農林事務所農業普及課  
または中山間農業研究所中津川支所

8 連絡先 恵那農林事務所農業普及課  
担当者 松本 政行  
電話番号 0573-26-1111  
FAX 0573-26-1377

中山間農業研究所中津川支所  
担当者 長谷川雅也  
電話番号 0573-68-2036  
FAX 0573-68-3116

9 後援 恵那地区農業普及事業推進協議会

## 別紙 1

### H24年度合同成果発表会テーマ

#### ○恵那農林事務所農業普及課活動発表課題(3テーマ)

##### 1 エメラルドグリーンの新特産品「恵那ブロッコリー」は第3極になりうるか

・・・各務慎治技術主査

恵那管内は各地域に集落営農組織が存在し、優良農地を荒廃から守り、食糧自給率の向上に貢献している。ここ数年で多くの組織は法人化が進み、中には常雇用による通年営農を行う組織も誕生した。こうした組織を中心に、4年前から稲・麦・大豆の営農体系に組み込むことのできる経営補完品目として、ブロッコリーの生産が始まった。大規模土地利用型でも施設集約型でもない第3極とし生き残ることができるのか、これまでの成果と今後の展望について報告する。

##### 2 シクラメン発祥の地・恵那地域から ～恵那花き研究会・情報発信への取り組み～

・・・大野晴生技術課長補佐

大正7年から恵那市東野で始まったとされるシクラメン生産。現在では中津川市阿木をはじめ坂下や加子母地区にも広がり、県内の約6割を占めるシクラメン産地となっている。シクラメン以外にも、冷涼な気候を活かした良質な鉢花生産が行われており、この3年間、恵那花き研究会による「恵那地域の鉢花生産についての情報発信」を支援してきたのでその取り組みを紹介する。

##### 3 夏秋トマト産地活性化を目指して ～後半出荷量の増加と所得の向上～

・・・間宮徹技術主査

東美濃夏秋トマト生産協議会では産地改善計画を策定し、産地の活性化に向けた取り組みを行っている。当産地は夏秋産地でありながら、9月以降の出荷量が少なく、市場の要求に応えられない状況である。普及課では協議会と連携し、長期安定出荷に向けた技術及び後半出荷量を確保する技術の取り組みを支援し、所得向上に繋がる活動を紹介する。

#### ○中山間農業研究所中津川支所試験研究成果発表課題(4テーマ)

##### 1 夏秋果菜類の土壌病害を回避する新たな超低コスト栽培システムの開発(第3報)

・・・熊崎晃専門研究員

夏秋ナスおよび夏秋トマトにおいて土壌病害による生産性の低下を回避するために、中山間地域の実情に合った「超低コスト」な隔離栽培システムの開発を行っている。本年度は、ナスについて現地試験が行われ、その有効性が確認されるとともに、新たな課題とその解決への示唆があった。トマトでも一定の成果が得られたので報告をする。

##### 2 クリの凍害発生抑制技術の開発(第1報)

・・・神尾真司主任専門研究員

需要増加に加え、新品種「ぼろたん」の登場で新改植面積が増加しているクリにおいて、幼木期を中心に被害が発生している凍害は、生産量拡大の大きな阻害要因となっており、対策技術の確立が強く求められている。このため、平成23年度より兵庫県(独)果樹研究所、(独)近畿中国四国農業研究所と共同で凍害発生を抑制する技術の開発に着手した。今回は、その中で凍害の発生危険度を判定する手法について、これまでに得られた成果を報告する。

##### 3 飼料用米の低コスト多収栽培技術の確立

・・・広瀬貴士主任研究員

全国的に飼料用米の栽培面積が増加してきており、東濃地域においても飼料用稲専用品種が広く普及しているが、依然として収量は低くコストの大幅な削減は難しい状況にある。今回、これまでに選定した品種を用いた施肥等の栽培法や籾の乾燥費削減のための立毛乾燥法の検討結果と、慣行より育苗日数が少ない乳苗移植による現地実証の結果について報告する。

##### 4 シクラメンの新品種育成と低コスト高品質栽培技術の開発

・・・浅野正主任専門研究員

近年、シクラメンの販売価格が伸び悩み、化石燃料の高止まり傾向にある現状において、生産現場からは地域のオリジナル品種を持ち産地の魅力を向上させることと、収益確保のための低コスト栽培を実現することが望まれている。そこで、黄色シクラメンの更なる高付加価値品種の育成と、施肥改善・暖房費節減・葉組作業軽減などの低コスト省力栽培技術の開発を試みたので報告する。



